

★シラバス(学習の手引き)★

令和 5 年度版

Abashiri Keiyo High School

教科	地理歴史科	学科	普通科	学年	1	年	必履修科目
科目	地理総合			単位数	2	単位	
使用教科書	高校生の地理総合(帝国書院)		副教材	新詳高等地図			

学校教育目標	高い志を立て、自己を練磨し、社会に貢献する人間の育成(立志・練磨)									
育成を目指す 資質・能力	基礎的学力	◎	協働力	○	論理的思考力	◎	傾聴力	○	課題解決能力	○
	表現力	○	判断力	○	考察力	◎	情報活用能力	○	コミュニケーション能力	
	基礎的読解力		創造力	○	洞察力		継続力		行動力	
	自己管理能力		共感力		自己実現力		復元力(折れない心)		自己肯定感	
学習の到達目標	・世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。									
	・地図や地理情報システムなどを用いて、さまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめめる技能を身に付ける。									
	・地理に関わる事象の地理的な見方・考え方を働かせ、概念などを活用して多面的・多角的に考察する。									
	・地理に関わる諸事象について、課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。									

★評価規準	A:十分満足できる	B:概ね満足できる(基準)	C:努力を要する
-------	-----------	---------------	----------

★単元ごとの評価規準 地図や地理情報システムでとらえる現代世界			★4月～6月中旬までの学習内容		
①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度			
・様々な地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置・領域、国家間の結びつきを理解している。 ・地図や地理情報システムを用いる基礎的、基本的な技能を身につけている。	・主題を設定し、世界的視野から日本の位置、国家間の結びつき、地図や地理情報システムの活用などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・地図や地理情報システムと現代世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。			
★何で評価するか ・定期考査 ・小テスト ・ワークシート	★何で評価するか ・定期考査 ・ワークシート	★何で評価するか ・行動観察 ・ワークシート ・振り返りシート			

【学習計画】

月	単元	学習の目標(評価の観点:評価方法)
4	・お迎えテスト ・ガイダンス ・地球儀と地図	球体としての地球、時差と生活、おもな図法による世界地図、地図の表現を理解する。世界地図の特色を理解し、以降の学習の基礎を築くとともに、日常生活で活用する力を身につける。
5	・地図と地理情報システム	身の回りにある地図を題材にして、地図を用いた情報伝達の方法を習得する。地理情報の電子化について学習し、紙の地形図と電子地形図の違いや用途を理解し、活用する。地球儀ソフトや地理院地図などのGISソフトウェアを利用して地理空間情報を扱い、表現する技能を養う。
6	・現代世界の国家と領域 ・地図から見る国内や国家間の結びつき	国家の3要素や国境のなりたち、領域における海洋の役割、日本と周辺諸国との間の領有権問題について理解する。国境や領土問題が国際関係、人々の生活におよぼす影響を考察する。国家間の結びつきを地域経済圏や国際連合を通して考察する。さまざまな統計地図や統計資料を分析し、表現する地理的技能を養う。

★単元ごとの評価規準 生活文化の多様性と国際理解			★6月下旬～9月下旬までの学習内容		
①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度			
・世界の人々の特色ある生活文化が地理的環境と影響し合い多様性をもつことや変容すること、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性を理解している。	・世界の人々の生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりに着目して、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。			
★何で評価するか ・定期考査 ・小テスト ・ワークシート	★何で評価するか ・定期考査 ・ワークシート	★何で評価するか ・行動観察 ・ワークシート ・振り返りシート			

自己評価	実際評価
観点	観点
① ② ③	① ② ③

7	・世界の地形と人々の生活 ・世界の気候と人々の生活	世界的な視野から地球上の起伏の分布がプレート境界と関連していることを捉える。また、河川がつくる地形や海岸部の地形を活かした暮らしの特徴を読み取り、考察する技能を身につける。世界的な視野から大気循環する仕組みを捉え、気候の地域性が生まれることを理解する。世界の各気候帯の自然環境の特色、人々の暮らしと工夫について、資料から考察する。
8	・世界の産業と人々の生活	世界の農業・工業の特徴と生活文化との関連性を捉え、その地理的環境や歴史的背景を理解する。
9	・世界の宗教・民族・言語と人々の生活 ・多様な生活文化と地理的環境	世界の言語・宗教の特徴と分布、生活文化との関係を考え、その地理的環境や歴史的背景から地域的特色を理解する。世界の少数民族や少数言語、宗教対立、移民・難民などの現代社会の諸課題を理解し、互いに多様な文化を尊重する多文化共生社会の実現方法について議論し、考察する。

★単元ごとの評価規準 地球学的課題と国際協力		★10月上旬～11月下旬までの学習内容
①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
・地球学的課題の各地で共通する携行性や課題相互の関連性などについて大観し、解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力が必要であることを理解している。	・地球学的課題について、地域の結びつきや持続可能な社会づくりなどに着目し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・地球学的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
★何で評価するか ・定期考査 ・小テスト ・ワークシート	★何で評価するか ・定期考査 ・ワークシート	★何で評価するか ・行動観察 ・ワークシート ・振り返りシート
10	・人口問題 ・食料問題 ・都市、居住問題	世界人口の急増によって生じる問題を世界的視野から理解し、人口ピラミッドや主題図などの資料から問題の所在と解決のための取り組みを考察する。都市に人口が集中する要因を主題図や統計資料から読み取るとともに、人口集中によって引き起こされる都市問題についても写真などから判断する。
11	・感染症、衛生問題 ・資源、エネルギー問題 ・地球環境問題	エネルギー資源の変化を世界的な視野から概観する。地球環境問題の仕組みを構造的に理解する。持続可能な発展を実現するために、国際協力体制、その背後にある政治・経済的な課題解決も考察する。また、自分自身とのつながりを意識し、SDGsの因果関係も捉えながら具体的な取り組みを構想する。

自己評価		実際評価	
観点		観点	
①	②	①	②

★単元ごとの評価規準 持続可能な地域づくりと私たち		★12月上旬～1月下旬までの学習内容
①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
・地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりを理解している。 ・自然災害に対応した各種の地理情報について、情報を収集し、読み取り、まとめる地理的技能を身に付けている。	・地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
★何で評価するか ・定期考査 ・小テスト ・ワークシート	★何で評価するか ・定期考査 ・ワークシート	★何で評価するか ・行動観察 ・ワークシート ・振り返りシート
12	・自然環境と防災	日本列島の地形や気候のなりたちと多様性について、主題図やグラフ、写真などの資料から理解する。また、日本列島では自然による恩恵だけでなく、風水害、火山、地震・津波、都市型災害などが発生することを世界的な視野から捉え、その要因と特徴、災害の地域性、防災や減災への取り組みや課題を考察する。新旧地形図やハザードマップなどを活用し、自らの生活圏の防災について考察し、表現する技能を身につける。
1		

自己評価		実際評価	
観点		観点	
①	②	①	②

★単元ごとの評価規準 持続可能な地域づくりと私たち		★2月上旬～3月下旬までの学習内容
①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
・生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などについて理解している。	・生活圏の地理的な課題について、課題解決に求められる取り組みなどを多面的・多角的に考察し、構想し、表現している。	・生活圏の調査と地域の展望について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
★何で評価するか ・定期考査 ・小テスト ・ワークシート	★何で評価するか ・定期考査 ・ワークシート ・課題レポート	★何で評価するか ・行動観察 ・ワークシート ・振り返りシート
2	・生活圏の調査と地域の展望	生活圏の課題を解決するための手法としての地域調査を実施し、身近な地域の魅力やかかえている課題を見だし、調査を踏まえてその解決策を考察する。地域調査の一連の手順を理解し、景観観察やアンケート・聞き取り調査など、さまざまな調査方法を活用する。調査結果や統計ツール、新旧地形図やデジタル地図、各種資料などによって得られた情報を多角的な視点から主題図やグラフにまとめ、将来に向けた地域のあり方を構想する。
3		

自己評価		実際評価	
観点		観点	
①	②	①	②

★最終評価総括(自己評価/実際評価)

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度

自己評価総括

①	②	③

実際評価総括

①	②	③

◎前期振り返り	◎後期振り返り	▶備考